

第1章 なぜ聞き取れないのか？

「はじめに」で書いたように、英語を聞き取れない理由は、英語の音をカタカナに置き換えて聞いてしまうからです。とはいえ、まだ納得いかない人も多と思います。もう少し詳しく見ていきましょう。

知らない音は知っている音に置き換わる

有名な童謡「赤い靴」には、「異人さんに連れられて」という歌詞があります。私は子供のころ、これを「いい爺さんに連れられて」と勘違いして聞いていました。「異人さん」という言葉を知らなくて、「いい爺さん」という知っている言葉に置き換えて聞いてしまったのです。

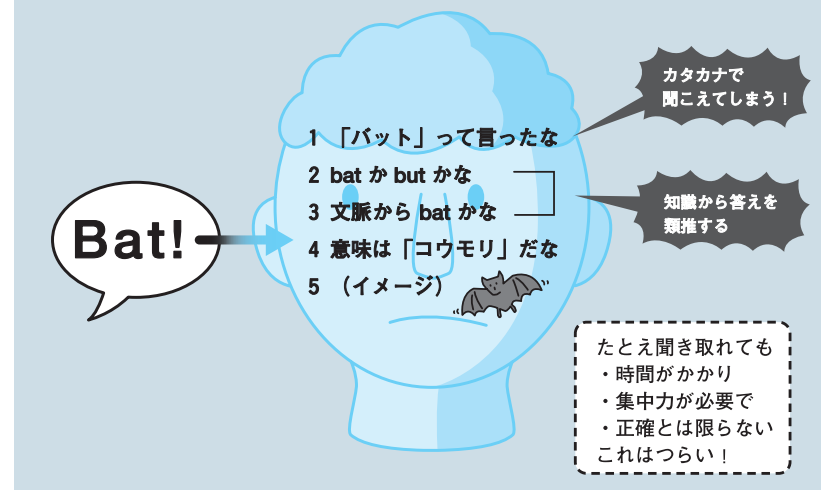
このようにわれわれの脳は、知らない言葉を知っている言葉に勝手に置き換えてしまう性質をもっています。

もうひとつ例をあげましょう。「タモリ倶楽部」という深夜番組の、「空耳アワー」というコーナーをご存じでしょうか。洋楽の歌詞から、日本語のように聞こえる箇所を見つけて楽しむという内容のコーナーです。

番組中では、画面の下に説明のための日本語が表示されます。不思議なことにその日本語の文字を見ると、どうしてもその音にしか聞こえなくなってしまう。この例は、日本人が英語を聞き取れない理由をよく示していると思います。

じつは、われわれが英語を聞いたときには、これと同じ現象が起こっています。次ページに英語を聞いたときの日本人の脳の動きを図解しました。

図1-1 日本人が英語を聞いたときの脳の動き



図のように、日本人の頭のなかでは、聞いた英語がいったんカタカナに置き換えられます。

bat [bæt] という音が、カタカナの「バット」に置き換えられ、bat や but などの知っている単語からうまく当てはまるものを選びようとします。その際には、日本語で覚えている単語の意味も記憶から探します。そして最後に、イメージにたどり着くのです。

このやり方では、時間がかかってしまうのはおわかりいただけるでしょう。ナチュラルスピードの英語に、すぐについていけなくなるのはこのためです。しかも複雑な作業ですので、かなりの集中力も要求されます。

こんなことになってしまう理由は、日本人が英語の正しい発音を知らないためです。正しい音を知らないで、カタカナで代用するしかない状態になってしまっています。